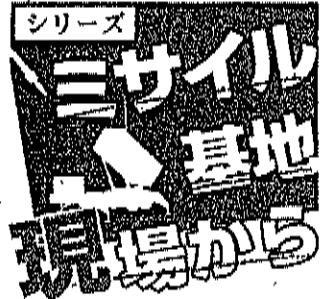


# 世界遺産の戦場に

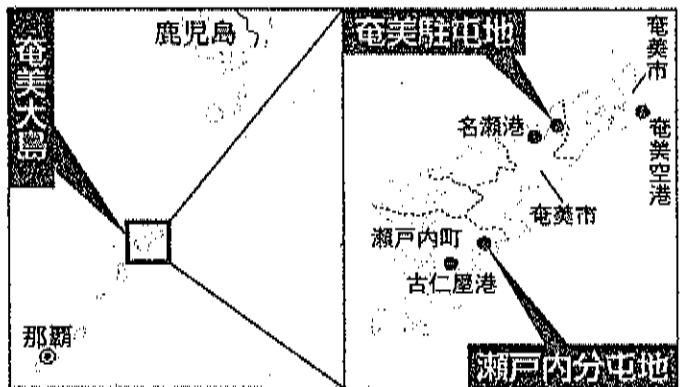
「世界遺産の島が戦場になりかねない。危機的な状況で許せない」。鹿児島市と沖縄本島のほぼ中間に位置する奄美大島（鹿児島県奄美市、瀬戸内町など）。

「東洋のガラパゴス」と呼ばれ、貴重な動植物が生息する美しい島で沖縄並んでミサイル拠点化が進み、戦争拠点にされていることに、島で生まれ育った西シガ子さん（92）は憤ります。（小林司）



## 森壊し巨大な弾薬庫

鹿児島 奄美大島



瀬戸内分屯地  
1年7月6日、鹿児島原瀬戸内町  
(沖縄アローンプロジェクト提供)

防衛省は2019年3月、国

の天然記念物で絶滅危惧種のアマミノクロウサギなどが暮らす森を壊して造成した陸上自衛隊奄美駐屯地（奄美市）と瀬戸内分屯地（瀬戸内町）を同時に開設。地対艦・地対空誘導弾（ミサイル）部隊と警備隊を配備し、22年には電子戦部隊、23年

には後方支援や施設の管理を担う業務部隊を配備するなど機能強化が進行しています。

政府は敵基地攻撃能力保有の一環として射程1000km以上の「12式地対艦誘導弾（能力向

上型）」の開発を進めており、奄美大島にも配備される危険があります。

瀬戸内分屯地には、巨大な弾薬庫があります。岸田政権が昨

年閣議決定した安保3文書の「防衛力整備計画」では、弾薬庫の「島しょ部への分散配置」を明記。防衛省は今年度、同分屯地に弾薬庫を増設する方針です。

奄美市へのミサイル配備は、

16年6月に駐屯地の麓の大熊地区での説明会で初めて住民に知らされました。説明会はその1度きりです。

「戦争のための自衛隊配備に反対する奄美ネット」の城村典文代表は、「ミサイル部隊配備はほとんど周知されておらず、まったく住民の意向を聞いていない」と批判します。戦後83年間の米軍統治の後、1953年に日本に復帰してから約70年の間平和だった島は突然、「戦争のできる国づくり」の波にのみ込まれたことになりました。

（2面につづく）

